

疾患名：過敏性腸症候群

1. 日本における有病率、成人期以降の患者数（推計）

約 10%

2. 小児期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

便性異常 腹痛 腹部不快感などが遷延し、学校生活や社会生活に支障を来たす一連の障害

3. 成人期の主な臨床症状・治療と生活上の障害

成人期に至るまでに改善するが多いが、過敏性腸症候群の中には症状が遷延し、過度の不安や抑うつを伴い登校できず引きこもりる場合や、極度に放屁を恐れ、精神疾患（社会不安性障害や自己臭妄想など）に至るケースも存在する。

4. 経過と予後

上記 3 の通り

5. 成人期の診療にかかわる（べき）診療科

消化器内科、心療内科、精神科

6. 成人期に達した患者の診療の理想

a. 成人診療科（診療科名：消化器内科 心療内科 精神科）に全面的に移行

7. 成人期に達した患者の診療の現実

a. 成人診療科（診療科名：精神科）に全面的に移行

11. 移行に関するガイドブック等

e. 未定